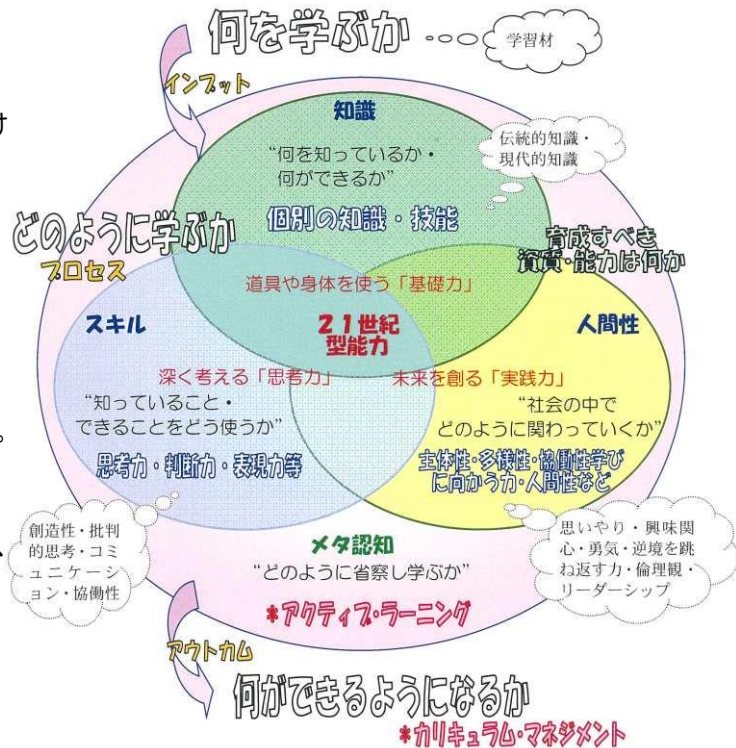


「What」「Why」「How」の意識で授業を構想する

算数指導は『子どもの「What」「Why」「How」の意識に働きかけることが大切』と述べてきたが、この3つの意識は、課題解決に働きかける場面の全てにおいて、重要な視点となるものである。

例えば、マネジメントする際にも、何について、なぜ、どのように、いつまでに、どの程度まで…と詰めていき、3つの意識抜きには成り立たない。

21世紀型学力育成に向けた授業を構想する際、本時の「What」とは、「Why」とは、「How」とは？と追求することで、教材研究がより深まり、価値ある授業の成立に向かうと考える。



1 本時の「What」を探る意識

○何を育てれば良いのだろう。 ○何を理解させれば良いのだろう。 ○何が出来ようになれば良いのだろう。 ○何に気づかせれば良いのだろう。 ○何について考えさせれば良いのだろう。 ○何（どの既習）と関連づけさせれば良いのだろう。 ○何を拡張していけば良いのだろう。 ○何を焦点化すれば良いのだろう。 等々

2 本時の「Why」を探る意識

○なぜ解決する必要があるのだろう。 ○なぜ今の表現処理方法になったのだろう。 ○なぜこの方法で解決できるのだろう。 ○なぜこの情報（数・場面等）になったのだろう。 ○なぜ・・な方法で学ぶのだろう。 ○なぜ言い切れるのだろう。 等々

3 本時の「How」を探る意識

○どのように解決させれば良いのだろう。 ○どのように展開すれば良いのだろう。 ○どのように交流させれば良いのだろう。 ○どのように意味付け・関係付けしていけば良いのだろう。 ○どのように気づかせれば良いのだろう。 等々

まず指導者の視点で、授業の「What」「Why」「How」を探り、明確にしておく。そして次には、それを子どもの意識にするための方法を研究していくのである。

基本、子どもとともに学ぼうとする姿勢で臨めば、よりよい展開が見えてくるだろう。